

令和5年度秋期 応用情報技術者試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2023,12,22

10月8日（日）に行われた令和5年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

■応用情報技術者試験（AP）

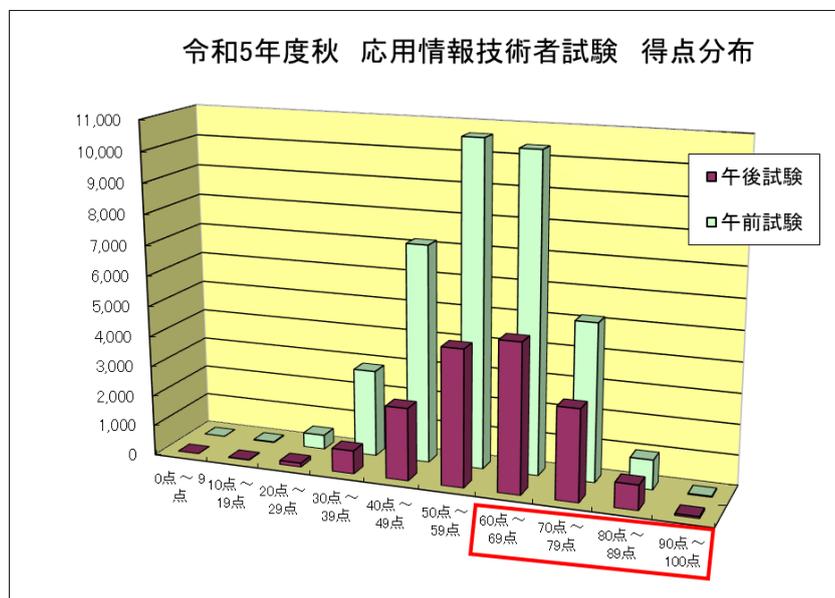
[令和5年度秋期 応用情報技術者試験 統計情報]

応募者	56,073 人
受験者	37,763 人
合格者	8,753 人
合格率	23.2 %

今回秋期の応用情報技術者試験の合格率は23.2%で前回春期試験の27.2%より4%も下がりました。令和元年以降の合格率としても低いといえる結果でした。

得点	午前試験	午後試験	合格者
0点～9点	5	3	
10点～19点	28	18	
20点～29点	477	130	
30点～39点	2,864	768	
40点～49点	7,174	2,382	
50点～59点	10,645	4,481	
60点～69点	10,386	4,881	
70点～79点	5,175	2,994	
80点～89点	976	816	
90点～100点	33	62	
計	37,763	16,535	8,753
対前試験比率		43.8%	52.9%
合格者数	8,753	採点者数の割合	合格者数との差
午前60点以上合計	16,570	43.9%	7,817
午後60点以上合計	8,753	52.9%	0

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。



今回の令和5年度秋期の午前試験では合格基準点の60点以上の人が16,570人で受験者の43.9%でした。前回の令和5年度春期試験の44.8%から1%ほど下がりましたが、過去の応用情報技術者試験の過去問題でやや難しいものが何問か出題されたことが理由と思われる。

午後試験で合格基準点の60点以上を超えている人（合格者）は8,753人で、採点数の52.9%にあたり、前回試験の60.9%から8%下がりました。出題された問題は例年並みの難易度でしたが、やや準備不足で受験した人が多かったのではないかと思います。

ボーダラインといえる得点結果の人について、午前試験で50点以上60点未満の人が10,645人（受験者の28.2%）、午後試験で50点以上60点未満の人が4,481人（同27.1%）と、どちらもかなり多くの方が、合格まであと10点足りないゾーンにいます。この得点ゾーンの方は、合格点まで“あと一歩”のところにいるので、苦手と感じる分野を中心に早めに次の試験対策を始めてください。また、試験直前の総復習も重要です。

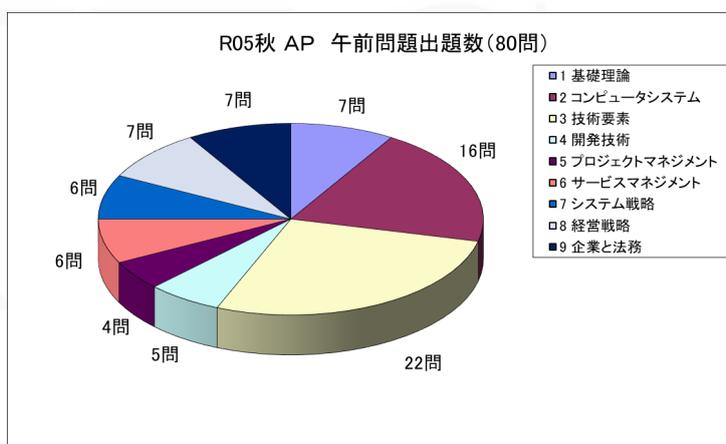
■令和5年度秋期 応用情報技術者試験の出題内容

（午前問題）

午前試験問題の出題形式について、前回よりも用語問題と考察問題が増えています。

新傾向問題は14問で、前回16問からは減っています。

過去問題の再出題が全体の約7割弱ありましたが、応用情報の過去問題再出題は31問で前回24問から少し増えました。この他、基本情報の過去問題は7問（前回9問）、高度午前Ⅱ試験の過去問題の出題が14問（前回20問）とどちらもやや減りましたが、応用情報の過去問題で難しい内容のものが多かったことから、午前試験全体としては、難しく感じられたと思われます。



（午後問題）

今回の午後試験問題は、必須問題の問1：情報セキュリティが、メール対策のマネジメント系寄りの問題で、難易度としてはやや易～普通でした。問2以降の選択問題については毎回2～3問が難しいといえる問題になっていて、今回は問7の組込みシステム開発（収穫ロボット）、問8の情報システム開発（スレッド処理）がやや難しい内容でしたが、午後試験全体としては、前回と同じ程度の難易度だったといえます。

午後の試験対策としては、各問題の出題テーマに関連する午前試験で出題される知識を確実に理解し、問題事例に知識を適用できるようになるまで、しっかり演習を行う必要があります。なお、令和5年度から実施されている新しい基本情報技術者試験の科目B試験（旧午後試験）とは出題内容が大きく異なり、問題の難易度もかなり上がるため、新しい基本情報技術者試験に合格してすぐに応用情報技術者試験を受ける場合には、しっかり時間をかけて知識の理解度を確実に高め、午後試験問題の演習を行う必要があります。